

### 第 3 回 榛 名 地 域 審 議 会

#### 総合計画前期実施計画事業に係る質疑

事業名	No.	質疑	回答
観光資源の活性化事業	1	社家町再生事業で、いろいろな事業を実施しているが、幽玄の杜音楽会の参加者数等は事業当初に比べどのような状況か。	参加者は神社の境内で、音楽を聞けることに好感を持っており、約6割がリピーターで約4割が新規の参加者と思われる。人数は多い時で1,000人位であったが、現在は、夜の部を神楽殿で行い、昼の部は社務所で行うため、収容人数に限りがあり若干少なくなっている。
榛名南麓フルーツライン整備事業（榛名地区）	1	事業計画を、中室田小学校付近に出るルートに変更しているが、数名の反対者に対してはこれから用地買収を行うのか。	計画しているルートについて、多くの地権者に対しては、県が実施したアンケート調査等で同意の確認をしているが、一部用地に対する説明不足等があり、同意を得られない地権者がいる。現在、県とともに対策を講じ、用地交渉を重ねている状況である。

報告事項の質疑

事業名	No	質疑	回答
平成23年度高崎市決算の概要について	1	繰越明許費繰越額と翌年度への繰越金の違いは何か。	繰越明許費繰越額は、23年度終了予定の事業がなんらかの理由により年度内に完了することができず、24年度に予算を繰越して同事業に充てるものを行い、翌年度への繰越金は、23年度の余剰財源を24年度の様々な事業に使えるものを言う。
	2	商工費とは何か。	商業振興、工業振興、及び観光事業に関わる費用である。
	3	歳出額で、民生費が一番多い中、生活保護費の不正受給が話題になっている。報道で、生活保護の受給者が良い車に乗っているとか、学校給食費を支払わないなどという話も聞くが、高崎市の現状はどのようなになっているか。	訪問等状況調査を定期的実施して適正な支給を確認していると主管課から聞いている。
			全国的に生活保護の問題が取り上げられているが、高崎市は国の基準に基づいてきめ細かく対応しており、不正受給はないと考えている。
4	高崎市のその他積立基金が93億円で、他市に比べて少し多く感じるが、使用目的を教えてください。	生活保護を本当に必要としている人への対応は常々意識している。学校給食費の滞納は、学校対応から教育委員会対応に変更したことにより、高額滞納者は少なくなった。また、半分以上の滞納者に、児童手当からの天引きの同意が得られ、少しずつだが前進している。	
			その他積立金は、奨学基金、福祉基金など約30種類の基金をまとめた金額である。運用方法は、原資の(次項へ続く)

<p>平成23年度高崎市決算の概要について</p>			<p>(前項の続き)</p> <p>運用、または、その利益を運用する事業及び基金を取崩し事業に充てるもの等がある。平成23年度まで、合併地域が施設整備関係として蓄えていた基金の残金も含まれており、各地域の施設整備関係の際に取崩している。他市に比べ少し多いとも思われるが、財政的に適正に運用していると考えている。</p> <p>積立基金は、93億円の他に財政調整基金が約72億円あり、突発的な災害や緊急を要する経費に備えるための基金として、決算剰余金が多いときは積み立て、財源不足時に取り崩すという、年度間の調整等に使われるものである。高崎市の歳入歳出額は約1,500億円であり、災害や、年度間の事業などに増減があるため、金額的には、いろいろな施策に対応しやすいと考えている。</p>
---------------------------	--	--	---

その他の質疑

内容区分	No.	質疑	回答
社家町活性化と榛名神社の観光ガイドについて	1	<p>榛名神社社家町で生活している人は、土産や蕎麦の販売だけでは大変だと思う。他県では、入山などを有料にしている施設もある。社家町住民の生活補助的なものを考えないと、将来神社の維持が困難になるのではないか。また、神社に観光ガイドがいないようだが、無料でガイドを付けている神社も多い。市は、今後の対応を考えているのか。</p>	<p>社家町を盛り上げるための社家町活性化委員会が設立され、町並みの改善やそば祭り、幽玄の杜音楽会等を地元の店舗とタイアップしながら実施している。しかし、住民の高齢化や後継者不足、また、それに伴う空き店舗など、現状は難しい部分もある。また、高崎経済大学の戸所ゼミの生徒も、様々な調査を実施しながらイベントに協力を頂いているが、戸所先生が定年を迎えるにあたり、今後の後継について心配されるところがある。今後も地元住民と相談しながら、進めていきたいと思う。</p> <p>社家町の観光ガイドは、登録者が4名おり、産業観光課に予約すると、1団体2,000円でガイドをする。</p>
少子高齢化対策について	1	<p>合併前後について関心を持っている。</p> <p>市長の挨拶の中に、孤独死をゼロに、また、買い物難民を無くす等、高齢者への対応には私も興味があるが、少子高齢化の対策として、待機児童のゼロも目標に挙げてもらいたい。</p>	<p>高崎市は、保育所の受入れ収容人数と入所希望児童の人数が一致しているために待機児童はゼロであるが、母子の立場からは、希望の保育所に入れることが、待機児童ゼロと考えているようである。保育所は、0歳から3歳までの児童3人に対し、1人の保育士が必要であり経費も掛かる。保育士を増やして受入れを可能にするかを詰めているが、予算の関係もあるため、 (次項へ続く)</p>

<p>少子高齢化対策について</p>			<p>(前項の続き)          挨拶の中で話すことはできなかったが、来年には、報告したいと思っている。          合併については、いろいろな意見があるが、大きな市でなければ解決できない問題もあるので、それらを着実に進めていきたいと思っている。</p>
<p>榛名山地区の防災について</p>	<p>1</p>	<p>高崎市消防団榛名方面隊幹部で、榛名神社と同じような放水銃が設置してある白川郷へ視察に行ったが、榛名山地区の防災面の対応を、どのように考えているか。</p>	<p>白川郷には、放水銃が40基あるので視察をしてもらった。榛名神社は、自動の放水銃4基と、手動の放水銃1基を所有し、本殿だけでなく山火事からの延焼を防ぐための利用目的も含まれている。榛名神社が維持管理を行い、年1回程度点検を兼ねて放水している。地元の榛名方面隊1分団と榛名神社との連携が図れるよう協力していきたいと思う。また、毎年6月に土石流災害に備えた訓練も榛名山地区全体で行われており、今後も支援していきたいと思う。</p>